

Derivation

- about ROSIER -



Rue des Rosiers (ロジエ通り)はパリの4区、マレ地区にある、ほんとに小さな通りです。細い石畳の道がつづき、まわりには古着屋とか、エスニックなアクセサリーなどの小さな店が並んでいて、かと思えば、最新のモードを発信するセレクトショップがあったり、華やかなパリのイメージとはまた違った、そこだけ時間が止まっているようなほっとする気分にかけてくれる街並みです。

20年ぐらい前に、はじめてこの街を歩いたときも、どこか、タイムスリップしたような気分とか、親近感を感じたことを思い出します。

その頃のパリを思うと、ロジエ通りのあるマレ地区はモンターニュやサントノーレのようなクラス感とかエレガンスでもなく、レアールやサンジェルマンほどの賑わいもなく、ひっそりとした時間の流れとデジャブーな空気…たぶん、それはこの街がユダヤ系とモロッコ系の移民によって形成されていることと無関係ではないような気がします。そのせいか、旅人にもウェルカムな表情をしている気がしたし、その後、ずっと続く旅の原風景のひとつです。

✦ ROSIER ✦

旅するワードローブ

一着の服の魅力は旅に出た時にわかります。

オンとオフの着まわし、ホテルでの洗濯などのケア、機内のシートでの着心地。

良い服はつまり、“旅”をします。

ファッションは、人にシチュエーションを提示するもの。

「明日は何を着て出掛けよう？」その空想がすでに旅の始まりなのかもしれませんね……。



『旅のための服』……と言っても、非日常的なイメージではなく、あくまでもそれは比喩的なもの。
旅の中にあるシチュエーションって、日常にも存在しますよね。
一言で言うと、『旅に持っていける服っていい服だよね』ってことです。

- ✦ 決まった着数なので、着まわしが重要（ステッチワークのルール）
- ✦ ホテルで洗って、そのまま着られるイージーケア（あらかじめワンウォッシュ）
- ✦ たとえエコミーシートでも機能的でリラックスできる（ストレッチ、ジャージーによる）
- ✦ オンとオフをカバーするテイストと質感（セルローズ系マイクロファイバーの複合）
- ✦ 自然なヨレやしワはヴィンテージ感を演出するポジティブなファクター（エイジングを前提とした素材設定と加工）
- ✦ 1着の服を大切に着ることもこれからのエコロジー（リペア&カスタマイズ）